

団体名	ホットスペース・和
事業名	居場所づくり

目的・背景	事業の効果
<p><b>目的</b></p> <p>子ども支援 子育て世代の親支援 安心な人間関係の形成</p> <p><b>背景</b></p> <p>核家族が増え共働き世帯も上昇しシングル世帯も散見される状況から孤食になりがちな子どもたち、そして仕事場と自宅の往復の日常は地域に親しい人間関係を構築するのは難しく、身近に相談、頼れる相手がいない孤育ての状況が考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の対象を制限することなく、誰でも利用できることとしている。子どもたちの抱えている課題は見えにくいものもあるとの考えからで、利用してもらうことで子どもや保護者から拾える機会になればと考えている。</li> <li>・月に2回ではあるが、利用することで顔見知り関係になることから関係性を築いていきたいと考えている。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの声から、いろんな形の家族構成が見えてきた。</li> <li>・友だち関係を継続するための大変さと課題も見えてきた。</li> <li>・行政との繋がりができたことで、気になる子ども保護者のことで相談できる体制を整えることができた。</li> <li>・向丘地区の民生委員児童委員協議会や地区社協の定例会に声をかけてもらい当団体の活動と居場所の意義を説明させていただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資金を獲得していくこと課題として引き続き残っている。</li> <li>・利用者も増えており、理解者を増やし地域に根差した活動にしていきたい。</li> </ul>



会食の様子



居場所の様子



メニュー

# 2022年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	かわさきハワイアンフェスティバル実行委員会
事業名	かわさきハワイアンフェスティバル2022

<p><b>目的・背景</b></p> <p>【コミュニティ作り と コミュニティの輪を広げる事】を目的として川崎市内でハワイアンイベントを開催する。</p> <p>市民にとっての地域の課題として</p> <p>1・24. 6%の方が挙げている【住民同士の関係が薄れている】</p> <p>2・16. 5%の【住民同士が交流する場や機会が無い】という問題に対して（川崎市役所 HP 掲載データより引用）</p> <p>川崎市内の多くの場所・多くの団体と共にハワイアンイベントを共に開催するという手段を通じて、発表場所の提供・団体相互間の協力・発表者や来場者の新しい交流という関係性を築き、継続性のある交流の機会を提供する。地域の住民同士の関係性を再確認し、イベント開催時のみではない住民相互間のコミュニティ作りの推進を図る事を目指している。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>地域のコミュニティの輪を広げる・参加しやすい身近なイベントとして【かわさきハワイアンフェスティバル 2022】を開催する事により、2021年2月15日、川崎市基本政策5「誰もが生きがいを持てる市民自治の地域作りより「情報共有」「参加」「協働」を基本とするという地域課題の解決策として参加型イベントにより新たなコミュニティ作り・情報共有ができる。</p> <p>川崎市基本政策5内の「自分たちのまちはじぶんたちでつくる」という地域課題の解決策として多くの年齢対象であり、継続的な活動（ワークショップ・参加型イベント）により「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成を進める事に対しても成果が期待できる。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>① ダンス参加(人):5月100、9月50、12月200、合計350人 音楽発表(人):5月30、9月募集なし、12月15、合計45人</p> <p>② ハワイ手芸(団体):5月6、9月2、12月11、合計19団体</p> <p>③ 体験レッスン(団体):5月6、9月1、12月4、合計11団体 市民活動団体参加団体:5月4、9月2、12月10、合計16団体</p> <p>④ ホームページアクセス数 709件 YouTube2072件</p> <p>⑤ 交流する場所が出来た:73% 横の繋がりができた:85% イベント満足度:90% やってほしいイベント・宣伝をもっとしてほしい 来場者の居住地:川崎市内80% イベントのきっかけ:舞台参加・知人より声かけ 集客人数:5月400人、9月200人、12月3000人、 合計3600人</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>① 実行委員会開催時には 必ず全員に意見を言ってもらおう。 (一般市民の方に喜んでいただく内容について)</p> <p>② 自分たちの発表会にならない工夫を 全員で考える (新規参加団体・ジャンルにこだわらない出演者)</p> <p>③ 川崎市内の他のイベントにも積極的に参加する</p> <p>④ コロナ対策が緩和されれば 公報に力を入れ集客人数に拘ることが出来る。</p> <p>⑤ 分科会の担当内容の具体化(個々が責任ある立場)</p> <p>⑥ 2年以内・A かわさきハワイアンフェスティバル実行委員会独自のダンスコンテストの開催 B 川崎市内の子供たちに(寺小屋)ウクレレ教室 ハワイアンリボンレイ・ダンスレッスン・折り紙レイの開催2年後 継続的に協賛して下さる企業の拡大活動 1.5倍(現在13企業➡20企業)</p>



5月ハンドメイドマーケット&音楽・ダンス



9月子どもまつり



12月かわさきハワイアンフェスティバル2022

団体名	一般社団法人カノンパートナーズ
事業名	アクティブシニア向け「健幸アップ体操」(トレーニング・リハビリ・機能訓練を中心に)

<p><b>目的・背景</b></p> <p>超高齢化に伴い、終末期の在り方や医療、介護などに係る社会保障費の拡大など経済的課題があります。</p> <p>私たちはこのような課題に対し、介護現場や介護予防体操の経験と実績(効果あり)から、地域ではありますがシニア層の自立支援や機能訓練、認知機能の維持・向上訓練などを行い、QOL(生活の質)を向上させ要介護状態に陥ることなく、イキイキとした生活を目指す支援を目的としています。</p> <p>具体的には、体力・筋力・関節可動域などのトレーニングや参加者同士のコミュニケーションを大切にするプログラムを展開し、地域のコミュニティづくりも目的にしています。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>① 健康寿命を伸ばすために、定期的に運動する機会＝居場所づくりの場4ヶ所の参加者増を図り、市民の体力、筋力、生活機能をアップさせQOL(生活の質)の向上が期待できます。</p> <p>② 「健幸アップ体操」のコミュニティ・ネットワークから、現参加者74名から80～90名を目指し、見守りネットワークや様々なイベントへ参加するなど社会参加を促します。</p> <p>③ 地域で活動する担い手の育成を目指し、地域活性化につなげられます。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>① 健康を維持し健康寿命を延ばすために、定期的に運動する機会を4ヶ所で143回実施しました。また、LINE 配信や自宅でチョイ体操のチラシ配布もあり利用者の満足度は90%(昨年80%)に向上しました。</p> <p>② 「健幸アップ体操(小杉・中原・新城・麻生)」の現参加者74名から89名へ拡大できました。また、参加者へ市や区役所、かわさき市民活動センターのイベント紹介などを行いました。</p> <p>③ 地域包括支援センター職員、社会福祉士実習生(研修の場(11名)、町内会体操の実施(5件)を行いました。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>課題: 開催告知が不十分であり集客が大きな課題です。</p> <p>今後の展望:</p> <p>① LINE 配信などを継続的に行い、更なる効果につなげるサービスを取り入れ顧客満足度向上を図ります。</p> <p>② 理学療法士と連携し、更なる専門性を追求したトレーニングを行い新規顧客の獲得を行います。</p> <p>③ 川崎市 SDGsゴールドパートナー5社と連携し、介護予防を地域に広げる活動を行います。</p> <p>④ 教室拡大に伴うインストラクターの育成を行います。尚、地域で活動するリーダーへの支援も引き続き行い、地域貢献も含めた活動を広げます。</p>



中原教室 リズム体操(転倒予防)



新城教室 筋力向上トレ(大腿四頭筋)



麻生教室 バランス感覚向上トレ

団体名	ダンスンブル Dancensemble
事業名	ダンスを通しての、世代間を超えたコミュニティ形成へのきっかけ創り

目的・背景	事業の効果
<p>この事業ではダンス活動によって、参加者や観客の方々が自分の表現を自由に楽しみ、心身共に健康になることを目指します。国籍、所得、居住歴、年齢など異なるバックグラウンドを持つ人々が暮らす川崎市。ダンスは異なるバックグラウンドを持つ人々であってもお互いに楽しみ、エネルギーをわかちあえるような非言語コミュニケーションです。</p> <p>新型コロナウイルスの流行によって人々の交流が減り不安も大きい今、「ダンスならではのエネルギーが人をエンパワメントする」機会をつくり、多様な人が交流するきっかけにつなげます。</p>	<p>活動に参加する前より、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体や精神面の調子がよくなる</li> <li>・身体で表現することの抵抗感が減少し、楽しむことができる</li> <li>・他の人の表現を認め、一緒に楽しむことができる</li> <li>・普段の生活では関わりのない人とも交流が生まれる</li> <li>・芸術・文化への興味が生まれ、参加や鑑賞により積極的になる</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>参加者アンケートで、事業の効果に記載した各項目を 5 段階評価していただき、全項目で平均 4.5 以上の高評価をいただきました。</p> <p>また、参加者アンケートで下記のような感想をいただきました。 (参加者の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスで舞台上立つという夢が叶えられたのと同時に、仲間と一緒に踊る一体感を知ることができました！</li> <li>・心身が健やかになるだけでなく、普段の生活も豊かにしてくれる素晴らしい経験ができました。</li> <li>・ダンスンブルに参加するときはすごく想像力を使うようになった。表現に関する既成概念が外れたと思う。</li> <li>・ダンスンブルの「誰でも身体を動かして踊れる」という方針のおかげで踊るための心のバリアを外してもらえた。もっともっと踊りたい、表現したい、関わりたいという気持ちが生まれた。</li> <li>・楽しく踊ることで健康寿命が延びるであろうと感じています。</li> <li>・ダンスンブルの活動は、一人一人の個性や特性を尊重してくれ、ダンスを通して様々な関わりや体験を生み出す場としてとても素晴らしい体験だと感じます。経験や年齢、性別に関係なくダイバーシティのある空間で非常に楽しく参加できています。</li> <li>・普段出合いがないような様々な人と関われるのが楽しい。</li> </ul>	<p>2022 年度は、川崎市内の様々な市民活動団体の方々と出会うことができました。そのような多様な方も含め、誰もがのびのびと表現を楽しめる場づくりを模索していきたいと考えています。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中原区、NEC プロボノ倶楽部の協力により開催している、NEC 公開空地のワークショップの継続(主に中原区の高齢者の参加)</li> <li>・ NEC プロボノ倶楽部の協力により繋がった、社会福祉協議会との連帯(主に川崎市の高齢者や障害者の参加)</li> <li>・ 川崎市子ども文化センターでのワークショップ開催(主に子ども達や保護者の参加)</li> <li>・ NEC プロボノ倶楽部の協力により繋がった、中原養護学校との連帯</li> </ul> <p>上記のような活動を広げていくために、以下 2 点にも重点的に取り組んでいきたいと思えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続的な活動の継続に向けた組織体制の整備、資金獲得の計画作り</li> <li>2. 心理的安全性の高い場づくりに向けた学習</li> </ol>



中原平和公園での公演の様子  
舞台参加者 52 名、観客約 200 名と一緒に踊りました！



気ままにオドリバー in カワノバの様子  
生演奏やDJの音楽と一緒に踊りを楽しみました。



NEC 公開空地でのダンスワークショップ  
3 歳～88 歳の方が一緒に踊り、エネルギー溢れる休日となりました。

団体名	防災マインド・アンド・マネジメント
事業名	防災マインドを育成する研修・訓練と防災に関する活動のマネジメント

目的・背景	事業の効果
<p>首都圏は、今後 30 年以内にマグニチュード 7 以上の地震発生率が 70%以上といわれています。また、近年の台風や豪雨災害は、これまでにない規模の被害をもたらしている状況があります。川崎市でも同様に、大規模地震による大きな被害が予想されているほか、2019年の台風や豪雨では多摩川沿いの地域において多くの被害が発生しました。しかし、市民アンケートをみても個人や地域での備えはまだ十分でなく、家庭内備蓄の実施や避難行動についての認知も約5割となっています。今後発生する様々な災害のリスクに対して、個人や団体が正しい知識を身につけ、十分な備えをし、有事には減災行動を率先して行い自らの命と生活を守れることを目指します。</p>	<p>■アンケートのコメントから抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人も子供も為になり、よい経験になりました。実際にやってみるという経験で子供も普段の避難訓練より、身近に火事を考え、いざという時に、役に立つなと思いました。</li> <li>・AED や心臓マッサージのやり方は、人が必ずやらなければいけないことなので、手順を学べて良かった。</li> <li>・心臓マッサージのやり方で、大人と子どもの違いがよくわかった。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>●団体向け講座(出張講座) 実施回数 12 回、受講者延べ 635 人、講座理解度 80%</li> <li>●個人向け講座(16mm コラボ 2 回含む) 実施回数 6 回、受講者延べ 20 人、講座理解度 90%</li> </ul>	<p>今年度の実施状況は、団体向け事業では、小学校での授業や他団体とのコラボでこれまでと異なる対象へ活動を広げることができた。</p> <p>一方で、個人向け事業では、年度途中からの無料化や市内各区、夜間時間の開催など工夫をおこなったが参加人数は昨年度より伸び悩んだ。</p> <p>課題は引き続き「団体の認知度向上」と「収益化」があげられる。</p> <p>これを踏まえ、次年度は団体向けを中心に知名度や事業価値を高めることで、収益化への糸口を見つけたい。個人向けは当面は無料講座を定期開催し、定着化を図ることを目指したい。</p>



個人講座「AEDと心臓マッサージ」



16mm 映写機の会コラボ企画



小学校 風水害体験授業

団体名	ふるさとファーマーズ
事業名	畑イベント事業

### 目的・背景

農林水産省が発表したデータによると、日本の食料自給率は1965年には73%でしたが、食の欧米化や農家の担い手不足により年々下降していき、2019年度はカロリーベースで38%となっています。つまり55年間で34%も下落したことになります。昨今のコロナ禍で、一時期、ロシアをはじめ十数か国からの食品輸入がストップしてしまい、自給率が特に低い小麦(12%)関連の商品が軒並みスーパーから姿を消すという事例が起きたこともあり、私たちは日本の食の脆弱性を危惧しています。今後再びコロナのようなパンデミックや、大きな災害、戦争などが起きた場合、海外諸国は食品輸出を制限し、その結果、日本国民の62%が飢えてしまうというデータもあります。予測のできない事態や問題に対処するためにも、「自分たちの食べるものは、自分たちで作っていく」という考え方の浸透を目指します。より多くの川崎市民の皆さまに賛同していただくため、まずは自ら畑に立ち、理解者を増やしながら普及活動を行い、食料自給率の向上に貢献してまいります。

### 事業の効果

昨年に続き、まいばすけっと労働組合、登戸小学校を筆頭に多くの市民の皆様に畑に来ていただき、特筆すべきは本事業で車をレンタルしたことにより、駅からの送迎ができたことより足腰に自信がないシニアの方や、1～3歳の小さなお子様づれのお母様に来ていただいたことが目標達成に繋げることができました。新たな企業、富士フィルム株式会社ともつながることができ、今後ふるさとファーマーズと一緒に何か活動を共にしたいとお声もいただきました。そして本事業から派生していき、登戸小学校にて6年生全クラスに向けて授業を行ってほしいと担当の中山先生に打診をいただき、2月9日 登戸小学校体育館にて14時～15時の1時間の授業を行い、食や農をはじめ自給率や働くことの話をし、下記の感想をいただき食の未来を子供たちに考えてもらおう、きっかけを提供することができました。

### 実施結果

畑イベント事業

- 川崎市市民来園者アンケート調査結果
- 川崎市 26名、幸区 32名、中原区 33名  
高津区 29名、宮前区 31名、  
多摩区 41名、麻生区 35名 合計 239名
- 満足度 大変満足 90%

### 事業の課題と今後の展望

本事業のおかげで、川崎の子供たちやお年寄りに来ていただけたことは大きな収穫でしたので引き続き車での送迎は続けていきたいと思っております。畑体験を通して消費者のリテラシーや、理解を高めていくことは引き続き活動しつつ、もっとたくさんの理解や認知を得ていくためには、街に出て講演やお話し会を開催していくことも必要に感じております。おかげさまで、そういった依頼も増えて参りましたので、来年度は、“伝える”の幅を広げ、力を入れていきます。また、農家さんとの協力体制を強化し、新規就農者を増やしていく活動もしてまいります。



車があるので多くの子供たちが畑に



まいばすけっとさんと農家さんを繋ぎました



登戸小学校にて6年生全クラスに授業

団体名	川崎不登校・ひきこもり親の会ネットワーク
事業名	川崎不登校・ひきこもり親の会ネットワーク事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>年々不登校は増加傾向にあり、昨年の発表では不登校が24万5千人になっている。この傾向はこれからも続いていくと思われる。これはひきこもりも同じである。それだけ、どうしたらと悩む子ども、親が増え続け、安心して相談できず、一人で悩む親が増えている現状にある。安心して相談できる親の会の必要性は大きくなっている。その親の会が川崎のどの区にもあるという意義は大きいと思っている。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>親の会ネットワークをつくり、3年目。川崎のどの区にも親の会がある状況にあり、その団体同志が連携して活動ができるようになってきたことは、それだけ安心して、相談できる状況になってきていて、意義深いことだと考えている。9団体の中で、たまり場、多様化プロジェクト、の2団体はメディアにもその活動が取り上げられていることから広がっていることが分かる。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>川崎のほとんどの区に不登校ひきこもりで悩んだ時相談できる場所があると、不登校で悩んでいる親にとって安心できる機会になっている。その各団体に相談に来る親も確実に増えてきている。どの親の会にも訪ねてくる親の方は年150人～200人になっていることでも分かる。また毎回新しく参加する親の方がいることから、不登校、ひきこもりで悩んだら、親の会へという情報が広がってきていると考える。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>親の会の活動に期待している親の方が増えてきていることを実感している。そしてネットワークとして、これからどのような活動をしていくか、その活動の充実をどうするか問われている。そのために、ネットワークとして各団体との連携を密にして不登校、ひきこもりについてどう考えていくか共通理解を深めていくことが大切だと考えている。また、ネットワークとして市や教育委員会との連携して考えていくことがこれからの大きな課題だとも考えている。</p>



川崎の会の定例会の活動

